

No.	筆者	作品名	材質	法量	所蔵・制作年・賛者
1	円山応挙	芭蕉童子図屏風	紙本淡彩	163.6×173.6cm	滋賀・円満院旧蔵 / 明和6年(1769)
2	円山応挙	雨中山水図屏風	紙本淡彩	163.2×173.6cm	滋賀・円満院旧蔵 / 明和6年(1769)
3	嶋田元直	関羽図	絹本着色	97.9×34.3cm	
4	嶋田元直	遊鯉図	紙本墨画	102.0×34.0cm	
5	山本守礼	美人機織図	紙本着色	127.0×54.0cm	黒川古文化研究所 / 千種有政(1743~1812)賛
6	源琦	鶴図	紙本淡彩	130.0×58.0cm	黒川古文化研究所 / 寛政8年(1796)
7	長沢芦雪	美人図	絹本着色	100.8×37.9cm	京都府立総合資料館(京都文化博物館管理)
8	長沢芦雪	松に双鶴図扇面	紙本墨画	47.8×21.0cm	皆川淇園(1734~1807)賛
9	中村則苗	虎図	紙本淡彩	105.4×53.6cm	
10	白井直賢	立美人図	絹本着色	111.4×43.4cm	黒川古文化研究所
11	秀雪亭	農耕図絵馬	板地着色	52.5×84.8cm	
12	山口素絢	狢猿図	絹本友禅染着色	25.8×33.3cm	黒川古文化研究所
13	山口素絢	美人図	絹本着色	97.7×34.9cm	黒川古文化研究所
14	山口素絢	唐美人図	絹本着色	94.1×35.3cm	
15	西村楠亭	樹上高士図	絹本淡彩	97.0×36.9cm	
16	円山応瑞	賀茂競馬図	絹本着色	60.7×101.1cm	泉屋博古館 / 冷泉為泰(1735~1816)賛
17	円山応瑞	遊亀図	絹本着色	16.4×13.9cm	
18	山跡鶴嶺	馬図絵馬	板地着色	51.1×86.7cm	
19	山跡鶴嶺	十六羅漢図	絹本着色	110.2×57.0cm	
20	木下応受	於福図	紙本淡彩	66.8×26.4cm	岡崎鶴亭(1766~1832)賛
21	渡辺南岳	美人図	絹本着色	28.8×21.2cm	黒川古文化研究所
22	渡辺南岳	鯉図屏風	紙本着色	各146.0×348.4cm	黒川古文化研究所
23	奥文鳴	蓬萊亀図	紋紙本墨画	94.1×41.4cm	江森月居(1756~1824)賛
24	森徹山	国道真景図	絹本着色	42.8×363.0cm	黒川古文化研究所
25	吉村孝敬	大沢池図襖下絵	紙本淡彩	44.5×385.4cm	

No.	筆者	作品名	材質	法量	所蔵・制作年・賛者
26	吉村孝敬	唐美人図	絹本着色	95.6×36.5cm	寛政7年(1795)
27	吉村孝敬	雪中菊図	絹本着色	16.4×13.9cm	
28	亀岡規礼	孔子図	絹本着色	112.8×56.6cm	徳川斉昭(1800~1860)賛
29	亀岡規礼	麻花図	絹本着色	97.0×32.9cm	
30	三谷五雲	松に猿図	紙本着色	112.0×42.3cm	京都府立総合資料館(京都文化博物館管理) / 寛政10年(1798) / 賀茂季鷹(1754~1841)賛
31	三谷五雲	蓮に青鷺図	絹本着色	98.6×33.9cm	文化5年(1808) / 富小路貞直(1761~1837)賛
32	橘公順	鍾馗図	紙本淡彩	130.9×27.9cm	享和2年(1802)以前
33	橘公順	松に鷹図	絹本着色	95.2×35.0cm	
34	橘公順	月に楓図	絹本墨画淡彩	103.0×36.6cm	師準(1758~1815)賛
35	土岐濟美	蘭亭曲水図	紙本着色	130.9×44.5cm	
36	土岐濟美	唐美人図	絹本着色	105.5×41.5cm	京都府立総合資料館(京都文化博物館管理)
37	土岐濟美	雷鳥図	紙本着色	102.4×34.3cm	寛政5年(1793)
38	土岐濟美	山水図	絹本着色	28.3×18.3cm	
39	源章	西王母図	絹本着色	123.8×54.0cm	
40	沢呉龍	墨梅図	紙本墨画	134.8×56.1cm	市河寛齋(1749~1820)賛
41	片山九畹	高士図	絹本淡彩	94.3×36.6cm	
42	片山九畹	聖徳太子図	絹本着色	76.9×33.3cm	
43	岡村鳳水	真鶴図	紙本淡彩	45.2×27.5cm	
44	岡村鳳水	枇杷図	絹本着色	16.4×13.9cm	
45	植松応令	藍采和図	紙本着色	110.2×56.0cm	寛政6年(1794)
46	呉春	雪松図屏風	絹本淡彩	23.6×174.4cm	
47	恩田石峰	西王母図	絹本着色	102.3×33.8cm	享和元年(1801) / 日野資枝(1737~1801)賛
48	大原重成	雪中常盤図	絹本着色	91.8×33.4cm	(「南岳」後落款)
49	国井応陽	虎図	絹本着色	136.7×22.7cm	黒川古文化研究所
50	国井応陽	松に旭日図	絹本着色	103.1×40.8cm	

円山応挙の門人たち

円山応挙(1733~95)は江戸時代中期の京都を代表する画家で、対象に即した合理的表現を追求する作画姿勢については、これまでもたびたび展覧会や書籍で紹介されてきました。ただその一方で、彼に学んで高い技量を備えた門人が輩出しているにもかかわらず、呉春や長沢芦雪などの一部を除き、一般的にほとんど知られていないのが現状です。著名な画家の歴史的意義を明らかにするためには、影響を受けた門人について裾野の広さや技量の高さを把握することも不可欠です。彼らの足跡をひとつでも多く掘り起こしてゆけば、現代の私たちが想像する以上に江戸時代の文化は多様であり、かつ深みを有するものであったと気づかされることでしょう。

そこで本展観では、応挙については重要作品をわずかに紹介するにとどめ、主要な門人25名の手になった約50点の展示を通じ、応挙の目指した絵画とその広がりの様相にせまってみたいと考えます。選りすぐった作品がならぶ会場の雰囲気浸りにいただき、京都で育まれた美意識やその文化性をご堪能ください。

第112回展観

円山応挙の門人たち

2014.10.18. (土) ~ 11.16. (日)

公益財団法人

黒川古文化研究所

〒662-0081 西宮市苦楽園三番町 14-50